

グループワークの概要

【コーディネーター】自治医科大学看護学部 学部長 春山 早苗先生

【講評】自治医科大学看護学部 学部長 春山 早苗先生、国立保健医療科学院 次長 曾根 智史先生

グループワークの方法 ○出席者が 23 グループに分かれてディスカッションを行った。

テーマ：保健活動の成果から明らかになった課題への指導・助言に関する統括保健師の取組
～統括保健師として組織横断的な観点から～

内容：（１）事前課題の内容の共有

保健活動の成果から明らかになった課題への指導助言に関する統括保健師としての取組について、事前課題の内容を共有した。

（２）統括保健師として必要な判断、行動、仕掛けへの考察

「保健活動の成果から明らかになった課題への指導助言」について、今後、保健活動を推進する上で、統括保健師としてどのような判断、行動、仕掛けが必要と考えるか、考察した。

（３）（２）について発表

6グループが発表を行った。

発表内容

【都道府県①】	○統括保健師は、保健師活動や現任教育の必要性について、上司や事務職員の理解が得られるように説明することが必要。 ○都道府県の統括保健師は、市町村が主体的・効果的に保健医療データを分析活用し、課題の優先度や重要度の判断が出来るよう、市町村の状況に沿って支援することが必要。 ○都道府県の統括保健師は、市町村の人材育成体制構築の推進等のために、統括保健師の配置の利点を説明するなどのリーダーシップを発揮することが必要。
【都道府県②】	○統括保健師は、都道府県庁において分散配置されている保健師が所属している課の業務について、保健所や市町村等の意見を聞き、課題の把握や優先順位の判断を一緒に考え共通認識が持てるような体制づくりを支援することが必要。 ○都道府県の統括保健師は、市町村が課題を根拠に基づき説明できるよう、例えば、都道府県全体とその中でのそれぞれの市町村の位置づけを示すことや市町村が自らデータを作成できるよう支援することが必要。
【指定都市】	○統括保健師は、自治体の組織目標の達成のため、保健活動の中で保健師の専門性が発揮できるような情報を共有することが必要。 ○また、統括保健師は保健活動を円滑に推進するために、保健師だけではなく、様々な部署や職種と調整をすることが必要。
【中核市①】	○統括保健師は、組織横断的に取り組むべき地域の健康課題について自治体内で課題を共有し、活動を展開する時機を捉えて調整することが必要。
【中核市②】	○統括保健師は、保健師間で相談、情報共有できる組織づくりに取り組むとともに、保健師の資質向上を図ることが重要。
【特別区】	○統括保健師は、保健師活動のビジョンを保健師等と共有し、ビジョンに照らし合わせて活動を評価できる体制を整備することが必要。 ○保健活動について行政職の理解を得るために、保健活動を見える化することが必要。

講評

国立保健医療科学院：次長 曾根 智史先生

- 保健活動は保健師だけで実施するものではない。様々な職種や地域の関係者・関係機関と共に推進していくことを前提としている。また、首長の理解を得ることも重要。
- 保健活動や問題提起につながるようなデータを目に見える形で出していくことが必要。
- 先を見据えて次期やその次の統括保健師の育成を考えていくことも必要。

自治医科大学看護学部：学部長 春山 早苗先生

- 自治体種別や、所属、職位等によって、統括保健師の役割や影響の範囲は異なる。自治体全体の方針、地域の健康課題、保健活動の目的や方向性を統括保健師自身が認識するのは当然だが、他の保健師にも伝わるように、かつ、ずれが生じないよう指導・助言をしていくことが重要。
- 自治体の保健活動は、組織的な合意を得ていくものなので、その仕組みが必要であり、こうした仕組み作りは統括保健師や管理的立場にある保健師の役割の一つ。
- 統括保健師は、保健師活動だけではなく、保健活動全体をマネジメントする役割があることを認識して、国の動向、地域の特性、自治体の施策を踏まえて保健活動を全体的・俯瞰的にみてビジョンを示すことが重要。
- 統括保健師は、保健師活動が見える化できるような人材育成や確保も重要。保健活動の最適化を図り、さらには効率的・効果的な保健活動の推進に繋げていくためには保健活動の評価を組織的に行う仕組みを作ることが必要。